

東洋大学百年史

通史編 I

題字
神作光一

東洋大学百年史

通史編 I

凡 例

一 本巻は『東洋大学百年史』（通史編Ⅰ・Ⅱ二巻、部局史編一巻、資料編Ⅰ上下・Ⅱ上下二巻四冊、年表索引編一巻、全六巻八冊）のうちの「通史編Ⅰ」である。

一 本巻は、創立者井上円了の生誕から、昭和二四年新制大学に移行するまでの時期を扱った。

一 通史編は、編・章・節・項からなり、さらに小見出しを付した。

一 表記については、左記の要領を基準とした。

- (1) 本文の記述は原則として常用漢字、現代かなづかいを用いた。
- (2) 年代は年号を用い、適宜西暦を併記した。
- (3) 引用文は原則として引用資料そのままとした。ただし、資料中の漢字は常用漢字にあるものは、それに改め、変体仮名・合せ文字などは通用のものに改めた。資料を本文中に引用するときは「」を用い、長文などの場合には級数を落とし、二字下げて記した。また資料の省略は、原則として中略の場合にのみ「……」として示した。
- (4) 虫喰、破損などにより判読できない箇所は□で示し〔不明〕と傍注した。また疑義のある箇所には〔ママ〕を付し、あるいは〔〕で傍注した。なお資料引用中の〔〕内は引用者の注記を示す。
- (5) 敬称・敬語は原則として使用しなかった。
- (6) 記述は出典を明記し、その表記は単行本・雑誌・新聞などは『』、論文などは「」を用い、適宜巻号数・発行者・発行年月日・頁数などを記した。

なお『東洋大学百年史』資料編Ⅰ・上および下から引用する場合は、〔資料編Ⅰ上〕一〇頁のように略記した。

東洋大学百年史／通史編Ⅰ／目次

序

序 文

凡 例

東洋大学理事長 塩川正十郎

東洋大学学長 菅沼 晃

第一編 創立者井上田了と私立哲学館

概 説

第一章 創立者井上田了

第一節 誕生とその時代

一 真宗大谷派慈光寺に生まれる

誕生と家族 生家・慈光寺

二 風土と時代

浦村と風土 近代への転換の時代

第二節 漢学を学ぶ

一 幕末の教育事情と宗門の師弟教育

幕末の教育事情 宗門の教育

二 石黒忠恵に学ぶ

石黒忠恵の経歴 熱心に学んだ井上田了

三 木村鈍叟に学ぶ

漢字の素養を得る 「井上私塾」との関係

第三節 洋学を学ぶ

24

21

19

16

16

13

11

11

11

一	新潟における洋学の勃興……………	24
二	新潟を中心とする状況 長岡洋学校の設立 新潟学校第一分校(旧長岡洋学校)に学ぶ……………	27
三	高山楽群社で栗原某に学ぶ 新潟学校第一分校に学ぶ 井上円了の学校生活 長岡学校において授業生となる……………	33
四	真宗大谷派「教師教授」に学ぶ…………… 真宗大谷派の僧侶となる 明治新政府の宗教政策と真宗教団 真宗大谷派「教師教授」の設立 教師教授に学ぶ……………	38
一	東京大学予備門へ入学……………	38
一	東京大学予備門として上京 予備門の学科課程 井上円了入学時の教職員……………	42
二	文学部哲学科入学……………	46
三	課外活動…………… 文学会と井上円了 哲学会の創設……………	51
四	卒業と進路…………… 卒業論文「読荀子」 学位授与式 本山奉職の固辞 不思議研究会……………	56
第二章	私立哲学館の創立……………	56
第一節	創立前後……………	56

一	仏教啓蒙運動の開始	56
	新政府の宗教政策	
	『真理金針』の出版	
	『仏教活論序論』の出版	
	哲学書院の設立	
二	日本主義と政教社	68
	欧化主義の風潮	
	政教社の結成	
	『日本人』と国粹保存主義	
	井上円了と『日本人』	
三	哲学館創立構想	75
	東本願寺留學生たちの交流	
	井上円了の計画	
第二節	麟祥院仮教場で開館	79
一	哲学館開設旨趣の発表	79
	開設旨趣	
	生徒募集	
	麟祥院について	
二	哲学館設置願を東京府に提出	82
	私立学校の位置づけ	
	哲学館設置願	
	学科・教員組織	
	徳永（清沢）満之について	
三	哲学館開館式	88
	館主の開館趣旨説明	
	来賓の祝詞	
	哲学館の評判・世人の関心	
	設立賛助者	
第三節	館外員制度と哲学館講義録の発行	97
一	館外員制度の制定	97
	館外員制度	
	館外生規則の制定	
	規則の改正	
	館外員制度のはたした役割	

二 哲学館講義録の発行……………	108
講義録の変遷・内容 通俗哲学講義録……………	
第四節 蓬萊町校舎の落成……………	115
一 当時の蓬萊町周辺……………	115
蓬萊町の沿革 校地借入の経緯と寺田福寿……………	
二 校舎の建設……………	117
資金募集 校舎の建設・暴風雨による倒壊と再築……………	
哲学館と郁文館 校舎および寄宿舎の落成……………	
三 哲学館移転式……………	121
式次第 来賓・講師・在学生の祝辞……………	
第三章 初期哲学館の教育……………	127
第一節 館主の第一回欧米視察と東洋大学構想……………	127
一 欧米視察に出発……………	127
外遊の目的 周遊の経路 各国の教育・宗教事情……………	
二 欧米視察から得たもの……………	133
各国固有の学問の振興 東洋学研究の隆盛・徳育教育……………	
三 哲学館の教育方針……………	136
「日本主義」 「宇宙主義」 卒業生の進路 専門科開設構想……………	
四 父・円悟への手紙……………	139
手紙の内容 仏教公認教運動……………	

第二節 蓬萊町新校舎での開校

一 館内員規則の制定と館内員心得

館内員規則 明治二四年・同二六年七月の改正 明治二八年・同三〇年八月の改正

明治三一年八月の改正 館内員心得 哲学館の制帽制定

二 学科改正と教員組織

東洋部・西洋部を設ける 教員組織 第一回卒業生を送り出す

講習(会読) 科の設置 明治二八年の学科改正(教育学部・宗教学部)

第三節 哲学研究会・東洋哲学会の発足

一 哲学研究会の発足

設立の経緯 研究会の組織 会員・特別会員 哲学研究会と同窓会

二 『天則』の発行

研究会活動と『天則』の発行 『天則』の発行母体の変遷

三 『東洋哲学』の発行

東洋学研究所の沿革(東洋学会・東洋哲学会) 哲学館における『東洋哲学会』

『東洋哲学』発行の旨趣 『東洋哲学』の特色

『東洋哲学』発行母体の変更

第四節 その他の教育活動

一 哲学館日曜講義

日曜講義の目的 期間・内容 明治二六年の日曜講義

二 妖怪研究会

194 191 191 177 168 164 164 152 143 143

井上円了の妖怪研究 講義録の発行

講義録の内容 妖怪研究会の発足

『妖怪学雑誌』の発行と妖怪研究会規則

三 中学講習会の設立 200

設立旨趣 組織・運営 講義録の発行

四 哲学祭・釈尊降誕会・孔子誕生会の開催 205

哲学祭 釈尊降誕会 孔子誕生会

第五節 学生と学生生活 213

一 学生の年齢・階層・出身地 213

入学者の年齢 入学者の階層 入学者の出身地

二 学生・講師の思い出 218

入学の動機 麟祥院の開館・教場点描 哲学館の博士たち

館生のある生活 哲学館の講師たち

三 寄宿舍と茶会の開催 238

寄宿舍の構造 寄宿舍規則の制定 茶会規則の制定

茶会の実際 寄宿舍の生活

第六節 卒業と進路 247

一 入学者数と卒業生数 247

入学状況 入学者と卒業者の数

二 教育者・宗教者・その他 250

哲学館の人材養成 卒業者の職業状況

第四章 学園の整備と拡充

第一節 蓬萊町校舎の焼失

一 郁文館から出火

出火・被害状況 仮教場での授業

258 258 258

二 漢学専修科の開設

開設主旨 授業内容・講師

卒業生 講義録の発行 漢学普通科講習会および講義録

260

三 仏教専修科の開設

開設主旨 授業内容・講師 卒業生 講義録の発行

仏教普通科講義録 専修科と他科との兼修

268

第二節 原町校舎の新築

一 原町校地の購入

購入の経緯 白山の地について 新築資金の募集

276 276

二 新校舎の落成

校舎の新築 落成・開館式

281

三 図書館開館と図書収集

古書・古像の収集 東洋図書館構想 大蔵経の購入

開設資金の募集 図書館の建設 図書の収集

284

第三節 教員免許無試験検定と学科改正

一 教員養成と無試験検定

291 291

教員養成のはじまり 教員養成制度の整備 師範学校令とその後
教員検定のはじまり 中等学校教員検定 公立・私立学校の無試験検定許可
教員免許令と「教員検定ニ関スル規程」

二 無試験検定許可と学科改正……………300

無試験検定許可の出願 検定試験準備と合格者 明治三二年の願書と

無試験検定の許可 明治三二年の学科改正 明治三四年の学科改正

第四節 学内外の諸活動……………311

一 哲学館夏期講習会……………311

哲学館夏期講習会の開設

二 各種研究会の発足……………314

哲学館教育学会 哲学館宗教会 漢学研究會

三 足尾銅山鉍毒事件と哲学館生……………322

田中正造の直訴 救済演説会と世論 学生の鉍毒被害地視察修学旅行

学生 の路傍演説 哲学館生の路傍演説 小石川区鉍毒救済有志会の結成

青年修養会 仏教者の救済活動と安藤正純

第五節 総合学園構想……………348

一 京北中学校の設立……………348

設立旨趣 設立の経緯 京北中学校の開設 京北中学校規則

教員組織・施設 第一回卒業式

二 京北幼稚園の設立……………357

井上円了の幼稚園論 京北幼稚園の開設

井上円了と園児（正富汪洋の詩）

第五章 哲学館の経営と井上円了の全国巡回

第一節 館友規則・寄附金規則

一 館友規則の制定

哲学館の経営方針 館友規則の制定

二 寄附金規則の制定

寄附金規則 寄附金規則の改正（明治二十九年一月）

寄附金募集一覽 揮毫規定

第二節 館主の全国巡回

一 全国巡回一覽

全国巡回の開始とその方法 全国巡回の目的

巡回一年間の募金状況 全国巡回一覽

二 全国巡回における講演

明治二三年静岡での講演 明治二四年青森での講演

明治三五年金沢における講演

第三節 経営状態

一 授業料、館費の変遷

月謝・束脩・館費 講義録の購読料

二 寄附金募集状況

寄附金募集報告 専門科開設資金募集状況

407 402 402 398 373 373 366 362 362 362

第六章 哲学館同窓会の結成と卒業生の活躍

第一節 同窓会の成立と活動

一 同窓会成立事情	416
同窓会の成立まで 同窓会規則の制定	416
二 同窓会の拡張	420
「東洋哲学会」と改名 同窓会の再興 地方における同窓会	420
三 同窓会の活動	426
同窓会例会 遠足会・修学旅行	426
第二節 卒業生の活躍	435
一 新仏教運動	435
経緯会の結成―新仏教運動の胎動 仏教清徒同志会の結成 『新仏教』の発刊	435
井上円了と新仏教徒 哲学館出身者の言説 新仏教運動の終焉	435
二 大谷派革新運動	451
運動の発端 運動の展開・終息 館主の檄と出身者の応答	451
三 仏教青年の米国留学	454
米国留学の動機 金田仁邦の場合 スタンフォード大学入学	454
金田仁邦の死 三関玄要の無念 水谷万岳の渡米と事業	454
四 仏典を求めて	462
能海寛のチベット行 チベットへ向け出発 河口慧海の生い立ち	462

チベット入国 セラ大学入学 チベット脱出 井上円了・大宮孝潤との再会

ネパール行と帰国 第二回チベット旅行

五 卒業生の学校設立……………477

哲学館認定学校設立の訴え 緝熙館の設立 入学資格・授業料・その他

学科課程・教員 緝熙館と哲学館予科 荒浪平次郎の釜山開成学校

安藤正純と真竜女学校 西山哲治と私立帝国小学校

第七章 哲学館事件……………488

第一節 発端と経過……………488

一 卒業試験と視学官の臨監……………488

教育部第一科甲種生の卒業試験延期 文部省視学官の臨監

視学官との問答 隈本有尚の略歴

二 教員免許無試験検定許可の取消……………494

試験後の風説 教育勅語撤回の風説 隈本有尚との面会

特典許可取消処分 哲学館の打撃

三 中島徳蔵の取消経過の公表……………505

中島徳蔵の公開状―「余が哲学館事件を世に問ふ理由」

四 文部省の見解……………508

隈本有尚の談話 中島徳蔵の反論 文部省当局者の弁解 中島徳蔵の弁駁

第二節 世論と論争……………513

一 新聞・雑誌の見解……………513

事件の報道 文部省の処分を不当とするもの 木下尚江の意見

高嶋米峰の論評 金子喜一の意見 文部省の処分を是とするもの

井上哲次郎の見解

二 倫理学論争……………531

桑木嚴翼と丸山通一の論争 桑木の反論と丸山の再反論

中島徳蔵との論争など

三 文科大学哲学科生の問いかげ……………535

学界の識者に言す 局外中立生の応答

単に教育行政上の問題なりや 哲学科生の弁駁 局外中立生の弁解と再反論

丸山通一、哲学科生に伝える 丁酉倫理会の意見

第三節 館主の第二回外遊と哲学館の対応……………542

一 館主の外遊……………542

インド・欧米教育視察 ロンドンで哲学館事件を知る

二 哲学館の対応……………545

謹慎表明と善後策 哲学館の対応に対する批判 ロンドンでの井上円了の動向

日英同盟とミューアヘッド 中島徳蔵と館生

三 館主の姿勢と事件の意味……………553

嘆願書の提出 独立自活の精神 事件の意味

第二編 専門学校令による東洋大学

概 説

第一章 私立哲学館大学

第一節 私立哲学館大学の開校

一 専門学校令と私立大学

専門学校令公布の背景 専門学校令の特色・意義 各私立学校の対応

569 569 569

二 私立哲学館大学の開校

大学部開設構想 設置認可と生徒募集 哲学館大学開校式

572

三 学科編成

学科組織(大学部・専門部・子科) 別科生・聴講生

575

明治三八年の学則改正と顧問・評議員の制度

第二節 井上田了学長の退隠

一 大学運営をめぐる問題

大学財政 学生数激減への対応策

591 591

教員無試験検定再認可への動き 哲学館大学革新事件

二 学長退隠の理由

退隠の契機と経過 四つの理由

602

第二章 東洋大学への改称

第一節 井上学長から前田学長へ

608 608

一 学長交代にともなう事務引継	608
新学長との契約 前田慧雲の経歴 京北中学校長の事務引継 湯本武比古の経歴	
二 新旧学長・校長送迎会	612
送迎会の様子 退隠直後の井上円了の動静	
三 東洋大学への名称変更	613
改称に至る経緯 申請・認可	
第二節 財団法人東洋大学の設立	615
一 財団法人の設立	615
財団法人設立に至る経緯 寄附行為の制定 組織・役員	
二 京北財団の設立	620
財団法人設立に至る経緯 寄附行為（組織・役員）	
三 両財団の合併	622
合併に至る経緯と組織 私立京北商業夜学校の附設 京北実業学校夜間部の増設 京北中等学校の附設	
第三節 創立三〇周年と校友会の創設	626
一 東洋大学記念会	626
記念会の発端 記念会の推移	
二 大内学長の就任と創立三〇周年記念	629
大内青巒の学長就任 加藤弘之祝賀会 創立三〇周年記念式典 記念行事 記念式典への出身者側の対応	

三 校友会の創設と経営参加	638
校友会設立に至る経緯	
校友会の成立	
校友会規則の制定	
大正八年一月の会則改正	
第四節 大学令の公布と第一次昇格運動	646
一 大学令の公布	646
大学令公布の背景	
大学令の特色・意義	
各私立専門学校の対応	
仏教連合大学について	
二 境野学長の就任	651
境野哲の経歴	
学長境野哲の大学構想	
三 維持委員会の設置	656
財団寄附行為の変更	
維持委員会規則・同選挙規則の制定	
校友会会則の改正	
四 昇格基金募集運動の展開と挫折	661
昇格基金募集計画	
東洋大学昇格基金募集規則・同施行細則の制定	
東洋大学拡張基金募集規則・同施行細則の制定	
地方の校友および出身者の活動	
昇格委員会の設置と活動	
昇格運動の中止	
第三章 井上田了の晩年の活動	675
第一節 哲学堂の建設と修身教会運動	675
一 哲学堂の建設	675
江古田和田山の取得	
哲学堂（四聖堂）の建立	
哲学堂の経営と拡張	
哲学堂夏期講習会	
財団法人哲学堂	

二 修身教会の設立	684
修身教会設立の旨趣	『修身教会雑誌』の発行
地方修身教会の設立	修身教会の中学講習会
三 井上円了の銅像・肖像	695
油絵贈呈の企画	銅像除幕式
四 第三回海外視察と修身教会運動の展開	697
南半球および欧州周遊	修身教会を国民道德普及会と改称
第二節 井上円了の逝去	706
一 最後の旅	706
中国各地での講演	大連幼稚園で倒れる
遺骨を迎える	東洋大学葬
二 忌法要・四聖祭・記念碑(墓)	711
百カ日法要	忌法要
四聖祭(哲学堂祭)	記念碑の建立
第四章 教育の刷新と学科の新設	719
第一節 私立東洋大学の学制	719
一 教員無試験検定の再許可	719
無試験検定許可申請	中等教員の需要
二 私立東洋大学の学制	722
私立東洋大学学則の制定	附属中学講習科・私立東洋高等予備校など
『新中学講義』の発行	『師範科講義録』の発行
『通商科講義録』の発行	と東洋大学出張講演

第二節 日清高等学部

一 清国末期の教育状況と清国留学生

清国末期の教育事情と留学生政策 清国留学生の増大と留学生教育の諸学校

732

二 日清高等学部の開設

日清高等学部仮開学式 規則の制定と開講学科 速成各科と卒業

737

高等師範科・高等法政科およびその予科

第三節 東洋大学における男女共学

一 女子の高等教育に関する動静

女子教育の概観 女子大設置は実現せず

743

二 女子学生の入学とその活躍

最初の女子入学者、栗山津禰 女子入学についての大学の見解

746

その後の女子入学者 女子学生のプロフィール

三 曙会の発足と女子部の独立運動

曙会について 女子部の独立運動 女子国語漢文講習会・女子国語漢文講座

755

女子国漢講座の廃止

四 文学部への女子入学

学則改正による女子入学規程 入学資格の拡大と女子入学者数

768

第四節 学制の改革と変遷

一 大正期の学制改革

773

仏教専攻科・仏教普通講座の開設 真宗本願寺派・真宗大谷派布教師免許附与

大正一〇年の学科改正と新設学科 仏教講座の改編

大正一三年の改正 倫理学東洋文学科夜間部新設

印度哲学倫理学科・文化学科・専攻科の改正

印度哲学倫理学科の二つの学科課程表

二 文化学科の新設と廃止……………787

文化学科・社会事業科の創設 新設学科披露会 文化学科開始と入学生

学科・教員組織 文化学科とは 文化学科の廃止

三 社会事業科の新設とその活動……………796

慈善事業から社会事業へ 社会事業科創設構想 学科開設と入学者

学科目編成と富士川游の社会事業観 科目担当講師 社会事業学会の成立

社会事業学会および学科の活動 関東大震災と同憂会

『東洋大学社会事業学会雑誌』の発行

社会教育社会事業科への改称 学科名称変更と富士川游の辞職

第五章 大正一二年の紛擾事件……………815

第一節 事件の発端……………815

一 幹事郷白巖の解職……………815

事件のきっかけ 解職の理由

二 教授間の動揺……………817

教授たちの辞意表明 辞職の理由

三 文化学科学生の不安……………820

第二節 学長排斥運動

一 学長不信任

..... 学生の学長不信任決議 一〇日間の全学休校と学生の処分を発表

二 校友会の動向

..... 校友有志団 校友有志団の辞職勧告書 学長境野の反論と再反駁

三 教授団の勧告

..... 五月一八日の勧告

四 学生の処分

..... 学生三四名の処分 反学長派の反発

第三節 境野学長の認可取消と事件の収束

一 顧問会に調停一任

..... 休業中の動き 第一回顧問会 第二回顧問会

二 六教授の解職と学生の憤激

..... 六月一日休業明けの情勢 第三回顧問会

..... 岡田調停の拒否と六教授解職 学長・幹事等の殴打

三 学長認可取消処分

..... 学長の認可取消 境野の忿懣と学生の処分取消

四 岡田学長就任と起訴学生の裁判

..... 岡田良平、学長を受諾 全員執行猶予

850 846 841 837 837 835 832 825 822 822

第四節 事件の余波	852
一 岡田学長排斥運動と中島学長事務取扱殴打事件	852
一部校友の学長排斥運動 中島徳蔵殴打事件	
二 校友会の和解	856
兩派和解の試み 平和協定の作成 事件の問題点 寄附行為の改正	
第六章 大正および昭和初期の文芸運動と大学の拡張活動	863
第一節 文芸運動	863
一 白山詩歌壇の黎明	863
井上哲次郎の一文 哲学館の詩歌人	
二 文芸研究会の活動	866
文芸研究会の結成 文芸研究会例会 公開講演会	
文芸夏期講習会 文芸研究会俳句部・同劇研究部など	
文芸研究会の拡張 文芸研究会の解散	
三 東洋大学の詩人・歌人たち	874
文化学科と文化劇場 『文化新聞』の発行 詩人大学 『白山詩人』について	
歌人について 文学を志した人々 南天堂の二階	
第二節 東洋大学の大学開放活動	884
一 夏期大学・講演会等の活動	884
大学主催による夏期大学等の開催 学生主催による夏期大学等の開催	
二 映中夏期大学の盛況	891

山梨県人会の活動 第三回夏期大学の趣旨および運営 内容・特色

第三節 臨海学校・その他の校外活動

一 東洋大学臨海学校

臨海学校の沿革 臨海学校の特色 組織・運営

臨海学校の内容および成果

二 宗教系学生団体

東洋大学真宗会 東洋大学曹湊会とコドモ会 東洋大学橘香会

裁松会・山家会 東洋大学仏教青年会

三 科外講座

仏教各宗の科外講座 東洋大学神道研究会と神道講座

第七章 学友会の設立と学生の活動

第一節 学友会の設立

一 同窓会から学友会へ

大正期の同窓会規則 同窓会の活動

幹部学生談話会 東洋大学学友会の成立 組織・運営

二 規則改正問題

規則改正をめぐって 昭和七年の改正

第二節 学生諸団体の活動

一 文化局各部の活動

弁論部（講演部） 学芸部 仏教部

897 897

905

912

916

916 916

925

931 931

二 体育局各部の活動……………	937				
剣道部の創部・活動	庭球部	弓道部	柔道部	野球部	競技部
馬術部・その他	文化・体育局各部の消息				
三 その他の研究団体の活動……………	948				
哲学会	心理学会	排酒同盟の結成・その他	国文学会	支那学会	
四 機関雑誌・新聞の発行……………	955				
『観想』の発行	『東洋学苑』の発行	『思想と文学』の発行			
『東洋大学々報』の発行	『東洋大学新聞』の発刊				
第三節 学生生活、校歌等の制定……………	965				
一 学生生活……………	965				
修学旅行	東洋大学祭	白山界限			
二 校歌、学生歌、応援歌……………	969				
校歌の制定	学生歌「若葉の森」	応援団と応援歌			

第三編 大学令による東洋大学

概 説

第一章 第二次大学昇格運動

第一節 大学昇格への準備

一 中島学長就任と第二次昇格運動の開始

中島徳蔵の学長就任 中島徳蔵の経歴 昇格運動の再開 申請書の提出と差戻

983 983 983

二 昇格部の設置

昇格部の新設 昇格部規則 新昇格委員と例会の開催 昇格部細則

988

昇格部の構成員

三 募金活動の展開

基金募集趣意書および募金規則 基金課の活動 校友会および出身者の後援

995

第二節 東洋大学の成立

一 大学設立申請認可と学部・予科の開講

申請書の提出と認可 予科および学部の開設準備 予科の組織・学科課程

1003 1003

学部の組織・学科課程 予科・学部の入学状況

二 研究科の開設と研究員規定の制定

研究科の開設 研究員規定の制定 第一回欧米研究員 研究室の設置

1014

三 専門学校令による東洋大学の処置

旧大学部・専門部の資格問題 財団寄附行為の変更 旧大学部の廃止

1021

四 学長銓衡問題と昇格祝賀式	1029
大学令による東洋大学学長銓衡の経緯	
学生側の動き	
第二次学長銓衡委員会	
昇格祝賀式	
第二章 昇格条件充足の課題と大学運営	1037
第一節 施設の拡充と整備	1037
一 新校舎の建築	1037
校舎建築の経緯	
落成と概観	
二 図書館の建築と竣工	1039
建築までの経緯	
建築の経過と概観	
三 高楠順次郎の学長就任と学生による講堂建設運動	1044
高楠順次郎の学長就任	
高楠順次郎の経歴	
学生の運動による講堂建設の促進	
建設の経緯	
講堂建築申請書の提出	
講堂建築費および決算	
講堂落成式	
四 学則等の変更	1062
学則の変更	
文学部第一回卒業生	
第二節 昇格後の大学運営と供託金問題	1067
一 財政の逼迫と対応策	1067
財政状況の行きづまり	
月掛寄附金募集	
旧昇格部からの基金引継	
二 基本金分割供託願	1074
基本財産の文部省供託	
供託金二五万円の調達	
供託金分納期変更願	
第三節 専門部の充実	1079

一 専門学校令による東洋大学専門部の設立	1079
専門部の設立 科名の改称	
二 専門部専修科の設置	1086
設置の趣旨 教員および学科課程 教員無試験検定許可の申請	
三 専門部社会公民科の設置	1092
社会教育社会事業科の現状 設置までの経緯 東洋大学法政経済学会 設置の目的 教員および学科課程 社会公民科の廃止	
第三章 経営再建努力と創立五〇周年	1104
第一節 大倉学長の就任と経営の再建	1104
一 藤村学長の就任と財政難	1104
藤村作の学長就任 藤村作の経歴 運営上の課題	
二 藤村作の運営方針および諸施策	1108
東洋大学任用規程・同給与規程の制定 教授会の規定に関する変更 学生主事の設置 専門部学科名称および課程の変更 専門部三学科(夜間)の廃止 専修科の入学資格および科名変更 諸施策の成果	
三 大倉邦彦学長の就任と学園興隆策	1115
大倉学長就任の経緯 大倉邦彦の経歴 学長就任の動機 学園興隆策	
第二節 一六教授辞職事件	1120
一 大学運営方針をめぐる対立	1120
事件の発端および臨時維持委員会の開催 小委員会における審議	

維持委員会における審議

二 一六教授の辞職と学科の再編

辞職願の提出とその受理 教授側の辞職理由

三 大倉学長による大学運営

大学財政の再建 文部省への供託金の処置 借入金金の返済処置

授業料等の値上げ

第三節 教育・研究体制の整備

一 諸講座および史学科の新設

各種講座の開講 福利教養講座 満州講座 武道体操講座

史学科設置の経緯と趣旨 学科課程および教員

二 学術研究会の発足

組織および役員 研究発表会の開催 『東洋大学紀要』の刊行

三 学位規程の制定

改正学位令 学位規程の制定認可

第四節 創立五〇周年記念

一 『東洋大学創立五十年史』の刊行と記念式典の挙行

記念事業計画とその準備 『東洋大学創立五十年史』の刊行 記念式典の挙行

二 大学および建学の精神の再認識

建学の精神の強調 学生の反応

第四章 戦争への傾斜と学生生活

1171 1167 1159 1159 1155 1150 1142 1142 1133 1128

第一節 昭和恐慌下の学生生活

一 入学者数の減少と恐慌下の学生意識

恐慌下の社会状況 入学者数の減少 学生生活と意識

二 共済部の設置と活動

設置の経緯と意義 活動内容

三 就職難の深刻化と対応

卒業生の就職難 大学側の対応

第二節 学生諸団体の活動

一 文部省の思想取締りと大学側の対応

文部省の思想政策 心交会の創設 満州産業建設学徒研究団

二 各種学生連盟団体の動きと東洋大学愛国学生連盟支部の結成

各種学生連盟団体の動き 愛国学生連盟支部 東洋大学護国会への改称

三 学内諸団体の活動

神道研究会 日本精神研究会 東亜研究会

第三節 時局への対応と学科組織

一 御真影・勅語謄本の「奉戴」と学則改正

国体明徴運動 御真影・勅語謄本の「奉戴」 学部・専門部の学則変更

二 学長・教員懇談会の実施

学長大倉邦彦の思想対策 懇親会の開催 懇談会の開催

三 専門部拓殖科および経済教育科の開設

1221 1214 1205 1205 1201 1193 1187 1187 1183 1176 1171 1171

第五章 戦時下の学内体制と学園生活

第一節 軍事教練の実施と戦時下の学生生活

- 一 軍事教練・野外演習の実施……………1234
- 軍事教練の開始 軍事教練の強化……………1234
- 二 戦時下学生生活の諸相……………1243
- 大倉山修養会 行軍・運動会 学生寮の開設 学生の意識 満州方面への就職……………1243

第二節 護国会および報国団の結成と学徒動員

- 一 集団勤労奉仕作業の開始……………1255
- 集団勤労作業の実施 興亜青年・同学生勤労報国隊の派遣……………1255
- 二 護国会の結成……………1264
- 結成までの経緯 組織および役員 東洋大学報国隊の編成 東洋大学特設防護団……………1264

- 三 報国団の発足……………1282
- 新発足の理由 組織および役員……………1282

第三節 非常戦時下の学内体制と学徒出陣

- 一 修業年限の短縮と学徒勤労働員の強化……………1288
- 修業年限の短縮 繰上卒業式の挙行 学徒勤労働員の強化……………1288
- 二 教育に関する戦時非常措置方策と学科の統廃合……………1297
- 高嶋米峰の学長就任 教育に関する戦時非常措置方策 「非常措置方策」への対応……………1297

東洋大学臨時学則の制定 高島平三郎の学長就任

第六章 敗戦と大学の再建

第一節 敗戦直後の学園と学生生活

一 授業の再開と学生生活

授業再開にむけての準備 橋本増吉の学長就任 橋本増吉の経歴

藤原猶雪の学長就任 藤原猶雪の経歴 鷄声寮（岩窟寮）

131213121312

二 新学則の制定

制定までの経緯 文学部五科制 専門部四科制 学則第一条・授業料等の変更

1320

教員無試験検定の指定申請

第二節 戦災復興と大学運営

一 校舎の被災と戦災復興事業

校舎の被災 戦災復興事業の開始 戦災復興委員会規則 加藤虎之亮の学長就任

13351335

文部省・銀行からの資金借入

二 東洋大学移転構想

移転問題の経緯 移転の見直し

1346

『東洋大学百年史』通史編

I

第一編 創立者井上円了と私立哲学館

第二編 専門学校令による東洋大学

第三編 大学令による東洋大学

II

第四編 東洋大学の再生

第五編 東洋大学の変貌

東洋大学百年史 通史編Ⅰ

一九九三年九月二〇日 発行

編集 東洋大学創立百年史編纂委員会

東洋大学井上円了記念学術センター

発行 学校法人 東洋大学

〒112 東京都文京区白山五―二八―二〇

電話 〇三(三九四五) 七二二四

印刷 株式会社フクイン

〒112 東京都文京区千石四―一七―一〇

電話 〇三(三九四六) 一五八一

